

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「ひとりはおみんなの為に、みんなは1人の為に」を掲げ、ひとりひとりの個性を引き出しながら、お互いを思いやる気持ちを忘れないように生活支援をしている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	誰もが目につきやすい所に理念を掲げ、家族や利用者、スタッフも常に確認が出来るよう取り組んでいる。また、認知症への理解を高めるように管理者、職員と共にミーティングで話し合いを行い取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者が安心して生活が行えるのを一番に考える中で、家族と連携を取りながら支援していき、地域の人々とは運営推進会議の場で情報交換を行ったりしている。近隣の小学校の行事や町の文化祭などに作品を出品したりしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣には小学校や併設している母体のケアハウスがあり、小学生とは畑仕事をしている時など挨拶や声掛けを行ったり、また声を掛けてもらえるように心掛けている。住民とは散歩中など声掛けをする事で、少しの時間でも世間話が出来ようになっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設しているケアハウスと合同での行事に参加する事でお互いの利用者が行き来を行うようになり、また小学校とは交流会や運動会の見学に行ったり、町の文化祭では作品を出品したりと交流に努めている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特別な取り組みなど現状行っていない。	○	特別な地域の高齢者に対して、暮らしに役立つ事が無いかを話し合う取り組みは行っていないが、運営推進会議などを利用し、地域住民の代表者が参加しているので、地域交流に努め先々で何かしらのお役にたてられるように取り組んでいきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年行われている外部評価で、アドバイスや指摘された所等は改善が図れるようにスタッフとも話し合いを行い活用している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回の運営推進会議も定着してきているが、家族に対しての呼びかけに中々参加者が殆どいないのが現状である。面会等で来苑された際も運営推進会議の事で色々な家族側の視点で意見などざっくばらんに言っていただきたい旨を伝えるも「何も言う事はない」と言われる状況。	○	ようやく形になってきているような段階の為、あまり家族や代表者からは意見が出ない事が多い。もっと何でも言い合えるような関係作り、環境作りに努めていきたい。また、その為に、家族との交流会を定期的に設けて関係作りに努められるよう取り組みを始めた。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は、堅苦しくない環境であるので、会議以外でも分からない事や改善した方が良いかなどを話し合いサービス向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などの機会が少ないので、参考書にて理解する事しか出来ず。家族などに説明する体制ではない。	○	制度について知らない事が多くあり、研修や参考書などで、理解できるように努める。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する各職員の認識が求められるので、資料等を利用する事で、様々なケースを認識できるので虐待を考える機会を設けていきたい。	○	日頃の業務内で、事故防止や自立を促す為に行動を抑制、制限してしまう言動がスタッフ間に見受けられる為、日頃の業務内で気づいた点はその都度話し合い、注意を行ったりしている。また、勉強会などで再度みんなで認識を行うように努める。

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族には契約時に苑の方針を説明している。家族には職員がアプローチしても困難な時などの協力が得られるように説明している。解約時には家族と苑がそれぞれの意向を話し合い、理解を図っている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が不満や苦情を訴えた時は、本人が納得と理解が出来るまで管理者と十分話し合いをし、その結果を職員に伝え今後の対応を話し合っている。また、家族にも内容を報告している。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族は定期的に来苑されており、その都度報告を行っている。また、遠方の家族の方には余り面会に来られないので電話等で連絡を行い報告をしている。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族より苦情が出た場合は早急にミーティングを行い、問題点と改善方法を話し合う取り組みが出来ており、運営に反映させている。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングには代表者も参加していただき、運営に関する事は代表者から職員に伝えてもらっている。また、実際の職員の意見や提案などを聞いてもらう環境が出来ている。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	グループホームで定められた職員の配置を基本にして、勤務態勢が組めるようにしている。また、利用者や家族の状況変化、要望に対しては対応出来るように調整を行い極力対応出来るように努めている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や退職の際は利用者へのダメージを少なくするように努力している。また、新しい職員には十分な引き継ぎを行い、利用者への不安感が増えないように配慮して支援している。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別の制限はなく、ヘルパー2級以上の資格を取得している者を初心者でも指導スタッフを置き、その人の能力が発揮できるように指導しながら対応している。採用の際は代表者と管理者にて対応している。		
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	人権教育等については特に研修へは参加していない。しかし、機会がある毎に入居者への対応を話している。		
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り外部研修への参加を促している。		
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一部の同業者とは関わりがあるが、ネットワーク作りや勉強会等、相互訪問は行っていない。		
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減の為に、食事会や旅行等を勧めている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出来る限り個々の職員と関わり、職員について把握しようと努力している。しかし、まだ不十分だと思う。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族より希望を聞いたうえで本人とのコミュニケーションを図る事で緊張や不安を少しずつ柔らいていき、その中で心を開いてくれるように努めている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、利用者より状況、生活歴、相談に至るまでの経緯を聞き、苑に対しての要望や困っている事に耳を傾けるように努めている。そして、苑の方針や理念を説明し、利用者、家族に安心して頂けるように対応している。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と連携を図りながら利用者が一番困っている事や今一番に何を求めているのか、どうありたいのかを日々の生活から見極めてサービスを提供して行けるように対応している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は環境の変化に非常に敏感であり、良くも悪くもしてしまうので、家族から生活歴等を等の情報を得た上で苑の生活に少しでも馴染んで頂けるようにコミュニケーションを図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的雰囲気を大切に思っているので、利用者の気持ちを受け入れる状況ばかりではないので一緒に喜びや悲しみ、怒りや楽しみの関係が築けていけるように努めている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には問題や困っている事を話すだけではなく、利用者が苑で見せる笑顔や楽しかった事を家族に話せる事も支援の一つであると思うので、家族と協力し合い利用者を支えながら関係作りに努めている。		
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の状況を理解して頂く事でケアの内容を報告したり家族側からの要望を確認しながら良い関係作りが築けていけるように努めている。		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族の面会があるので、家族の方々に外泊や外出を勧めている。外泊が困難でも家族で食事に出掛けたり、ドライブに行ってもらったりと関係が疎遠にならないように支援、協力をお願いしている。		
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ひとりひとりの性格が違うので、職員が把握して対応する事で食事やレクリエーション、行事では全員一緒に交流が図れるように支援している。		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了の理由も色々あるので、その理由により家族の不安感を一つでも把握して今後とも関係作りを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりのコミュニケーションの中に暮らし方や希望が見えてくるので、希望や意向を聞き出しながら家族からの情報を参考にして支援が出来るようにしている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や思い出を大事にする事でケアを行っていきながら把握するように努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で心身状態が把握できないヒトもいるので、日頃から個人の生活パターンを把握し観察を行いながら介護記録に記入するようにしてひとりひとりの状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングや毎日の業務の中で利用者の情報をその時その場で話し合い、定期的に来られる家族にも話し合いその意見を反映させて計画書を作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回のモニタリングと評価を行い、3ヶ月に1回計画の見直しをしている。また、突然の変化等が生じた場合、早急に計画書の変更を行っている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録の重要性を職員間で把握した上で、生活パターンを観察し、些細な事でも気づいた事や増態の変化等を記録に記入し情報をスタッフ間で共有している。その中で、身体的、精神的な変化が見られた場合は見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体であるケアハウスが併設しており、行事等のイベントでは合同で取り組みを行ったりしている。事業所の多機能性を生かした支援を提供している。また、本人や家族の要望や状況によっては極力希望に添えるよう送迎や病院受診等の支援をしている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じ、地域に民生委員や区長、市町村との交流も円滑に図れるようになり、季節毎の行事や地域の小学校とも交流学习の一環で毎年交流会を子供達と行ったり、運動会には見学に参加させてもらったりと協力しながら支援できていると思われる。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の身体状況をアセスメントを行い、苑内での生活パターンやリズムを観察していき本人、家族の要望があれば意向を聞き入れ福祉用具などの利用を支援している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は今現在特にない。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を大切にしながらかかりつけ医の受診を支援している。体調の変化のあった時は専門医への受診承諾を家族や本人に説明し対応している。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	病院は違うが、殆どの利用者が神経内科を受診しているので、日々の状態を報告している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	総合病院だと連携して気軽に相談などする事が困難である。個人病院では地域の方がいるので、安心感もあり、気軽に話しや相談が出来る。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院手続きの際は苑の意向を病院側に伝える。入院後、部を預かれるのは2ヶ月間である事を説明し、早期に退院出来るように情報交換を行っている。入院した際、本人・家族共々退院後の事をすごく心配・懸念されているので。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い、看取りケアについての話しは出ているが、現状まだ明確になっていない。スタッフの中で看取りに対しての理解が得られていない部分もある。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	49と連動してきちんとスタッフ間と看取り等に関しての話し合いを行う必要性が十分にある。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化で、認知症の進行が懸念されるので、職員や家族との情報交換や話し合いをしながら十分検討し本人にストレスを与えないよう十分に考慮しながら対応をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の規定があり、記録などは保管、管理されている。入居者の生活歴を受け止めて臨機応変にコミュニケーションを図るように取り組んでいる。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、本人の希望を聞き入れるように努めているが、ひとりひとりの考えが違うのと一緒に、気持ちが伝わらない時があるのでスタッフ間でフォローして支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や生活リズムに沿った過ごし方が出来るように気分、体調にあわせて配慮を行っている。その人にあった柔軟な対応を心掛けるように職員は工夫している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容室には本人希望があるので、希望を聞き入れ支援している。おしゃれは本人の好みの服があるので本人と話し合いながら支援している。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片麻痺や皮膚疾患があるために、材料を切ったりする事が出来ない方もいるので、後片付け等で本人の出来る範囲の事をして頂いている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒や喫煙の希望者はいない。おやつは10時と15時に提供している。	○	面会時に家族や友人の差し入れなどはスタッフに声を掛けてもらうようにしている。
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンチェック表を確認しながら随時トイレ誘導を行っている。失禁時は本人のプライドを傷つけないように配慮しながら介助を提供している。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	内臓疾患や皮膚疾患の方が殆どなので、医療連携を図り現在は1日おきに入浴支援を行っている。	○	皮膚疾患の利用者に対しては清拭を行い清潔保持に努めている。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活パターンを把握しながら、居室で休憩をしてもらい夜間の睡眠に支障が出ないように配慮しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の中でも自主的に洗濯物を干したり畳んだり、居室の掃除を行ってもらったりと役割を提供している。困難な方に対してはスタッフが役割を提供して本人の出来る所はして頂いたりフォローしながら一緒に支援している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状態によっては家族や本人の希望により預かり対応している。買い物への支援は希望を聞いて職員が対応したり、同行し支払いの際は極力見守りで支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課で散歩を楽しまれる人もいれば、1人で出掛けられない方に対しては天候の良い日など近隣の地蔵参りや近くの小学校、苑周辺を散歩したり、希望時には買い物に連れて行ったり気分転換を図っている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の屋外レク時以外に家族とともに外出されたり、希望があれば希望する店に買い物に連れて行ったりと出掛ける機会を提供できるように努めてはいる。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時は状況に応じて電話を掛けたりと支援している。また、家族から利用者へ電話が掛かってきた時も支援を行っている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族環境や状況、今までの生活や付き合いにより面会にこない利用者がいるが、その他の利用者は家族や親戚、友人や老人会の方々が面会に来られ、居室で話しをしてもらえるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や資料などをもっと利用し身体拘束について、全スタッフが理解できるようミーティング等で話しをしていきたい。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしづくりを支え、施錠はしなくても安心して生活できる体制がある。玄関にはセンサーが設置されているので、日中は鍵を掛けない取り組みがある。また、自由に活動できる環境作りに配慮している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の利用者の殆どがリビングで過ごす為、必ずスタッフが見守りを行う様子を把握している。理解力が低下している利用者もあり、移動介助が必要な方で不意に1人で立ち上がろうとし目の離せない利用者もいるので転倒事故防止も兼ねた見守り・安全確認を行っている。また、居室で過ごす利用者に対しては定期的に部屋を覗きに訪室し様子を伺っている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理可能・困難は別としてハサミ等の物品は制限せずに居室管理をして頂いている。針に関しては誤嚥等の事故も考えられる為、自己管理が可能と判断した利用者に対しては自己管理をして頂いている		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策マニュアルを準備し、各自把握してもらうようにしている。それ以外でも研修等の機会があれば研修も取り入れ学んでもらうように取り組んでいる。また、管理者を中心に知識ある物が他のスタッフにその都度教えたりと情報交換を行っている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練を定期的には行っていない。マニュアルを通じてスタッフに把握してもらうようにしている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防・避難訓練を実施している。また、もし、火災等の災害が生じた際は地域住民に協力が得られるように運営推進会議の際に地域住民の代表者にその旨を伝え働きかけを行っている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状況によっては家族との話し合いを行っている。また、常時、家族が面会に来られた際には最近の利用者の状況をお伝えし利用者の暮らしぶりを把握して頂けるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時のバイタルチェック以外にもその時の利用者の状態によっては随時バイタルチェックを行い、排泄・水分・睡眠の各チェック表も準備し状況を把握できるようにしている。普段とは様子が違う異変や体調不良時には早急に病院受診を行い対応している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者が服用している薬はスタッフがきちんと把握出来るように処方箋をいつでも見て把握できるようにしており、それ以外でもスタッフには何の為の薬なのかを最低限理解するように呼びかけている。主治医や薬剤師からの注意事項等に関しては全スタッフに情報を伝えている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や便秘が及ぼす影響等をスタッフに情報を提供し予防の為に1日最低でも800ccを摂取するように心掛けている。毎食時、それ以外での水分量をきちんとチェック表に記録しこまめに水分補給をしている。それ以外で、食物繊維をうまく取り入れ運動も行っている。	○	水分補給が毎日600ccを摂取出来ない利用者がいるので、病院受診の時に主治医に説明し相談を随時している。

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアがどれだけ重要なのかを職員自身が理解をし、利用者にも説明を行い、毎食後必ず口腔清拭の声掛けをして利用者の状態に応じ誘導や一部介助を提供している。		
79	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が3名おり、季節間を取り入れた材料の工夫を行いながら提供している。利用者の中には加齢・制限の人もあるので、入居者ひとりひとりの毎日の食事、水分、食事量をチェック表を元に調理をしバランスのとれた美味しい食事の工夫をしている。		
80	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを準備し、季節毎に流行る感染症については注意を払い予防に努めている。インフルエンザはかかりつけ医で予防接種を行い、疥癬・ノロウイルスの感染症では資料や研修などで知識を学び予防対応を行っている。	○	研修に行った際は全スタッフに資料を配付し勉強会を開き周知徹底に努めている。
81	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具に関してはその都度塩素系の消毒液で消毒を行っている。食材に関しては毎週日曜日に冷蔵庫チェックを行い賞味期限切れの食材がないかの確認と冷蔵庫内の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	苑周辺に空き地があるので、利用者とスタッフが一緒に季節の花や野菜の栽培等の作業を行っている。ケアハウスの方々が花摘みに来たりしている。		
83	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から夕方は沈む夕日が見えるので、利用者は楽しみにしている。リビングの共有空間のソファを利用する事が多いので思い思いに過ごしている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1日の生活は基本的に自由であるが、利用者はフロアで過ごす事が多いので、ソファで利用者同士がコミュニケーションを図り過ごしている。1人になりたい時は居室に入り過ごしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、本人と家族に説明を行い、使い慣れた者や大切な物を持ち込んでいただいている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時は全室の換気を行い、食事作りの内容によっては臭いがこもりがちになるので、気をつけながら換気に気をつけている。温度調整は利用者からの意思表示を受け、その都度調整をしている。利用者の衣服にも十分気をつけて支援している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態変化により、今まで出来ていた事が困難で福祉用具が必要となった場合は代表に相談を行い取り入れてもらったり、利用者自身の身体レベルにあわせ残存機能を生かした介助が出来るようミーティングで職員の情報交換を行い自立支援が出来るよう工夫をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者にも個人差があるので、その人の長年の暮らしなどを把握しながら、その人がその人らしく生活が出来るように役割を提供し状況によってはフォローが出来るように工夫している。		
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	全員一緒に行う事が出来ないで、個々で出来る事を行っている。ベランダには洗濯を干したり、取り込んだり、畑仕事や花壇の植え込みや手入れをスタッフと一緒に散歩に行ったりして活動の機会を設けている。		

.サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム しじみ苑

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)